

第 43 回生涯教育講座

「Psychiatric-onset DLB の特徴」

小林 良太 先生（山形大学医学部精神医学講座）

受講者からの質問と小林先生からの回答は、下記をご参照ください。

【質問 1】

レム睡眠行動障害が、抗うつ薬で起こりうることは確かなのでしょうか。また、どれぐらいの割合で起こるのでしょうか。

【回答】

抗うつ薬は、RBD がない場合でも、RSWA の増加と関連していることが報告されております。（McCarter SJ, et al. Sleep. 2015）また、スライドで引用しました Postuma の論文では、抗うつ薬を処方された患者の最大 6% に夢の行動化が見られ、高齢になると有病率は高くなると記載されております。また、抗うつ薬の添付文書では、悪夢などの記載がそれぞれあります。

【質問 2】

DLB が薬剤感受性が高い機序は、解明されているのでしょうか。

【回答】

古い文献ですが、抗精神病薬の投与に対応した D2 受容体のアップレギュレーションが起こらない DLB 患者では、過敏性が生じやすい可能性が指摘されております。（Piggott MA, et al. Biol Psychiatry. 1998）